港北の消防

第56号
平成29年4月1日
編集
横浜市港北消防団
（港北消防署内）

港北消防団出初式に参加して

篠原地区連合自治会　会長　川島　武俊

今年の出初式は晴天の元、一月七日十一時より日産スタジアム駐車場にて開催されました。

例年のように岸根囃子連によるお囃子と獅子舞に始まり、永年勤続消防団員、優良消防団員、一般消防功労者、優良家庭防災員、消防団員の家族に対する表彰が行われました。皆様方の防災活動への御貢献、御尽力に対し心より御礼申し上げます。

表彰後の神港鳶職組合によるまとい振込みと梯子乗りはいつ見ても見応えがあり、正月の風物詩として欠かせません。次に、各分団の消防車両と団員による分列行進、いつもながら規律正しい動きを見ることができました。

分列行進が終わると、横浜市立小机小学校マーチングバンドや尚花愛児園鼓隊の演奏が披露されました。いつにも増して素晴らしいパフォーマンスでした。今年は全体としてテンポよく進行したように感じられました。

東日本大震災より六年が過ぎました。各地で地震、自然災害が多発する中で、消防団の皆様には、日頃から地域の防火防災活動に取り組み、御尽力戴き、心より感謝申し上げます。

連合自治会としましても、地域住民と消防団との連携を深め、安心、安全な街づくりに努めて行きたいと思っております。

引き続きよろしくお願いいたします。

「小机消防班の最近」

第一分団第三班 団員　田嶋　重太郎

第一分団第三班は、日産スタジアムの最寄り駅「小机」周辺の警備を日々行っています。約三十人の班員の職業は場所柄、農業、会社員、自営業等様々で年齢も二十代から六十代までとなっています。

このような大所帯で大変なのは、訓練や班会議等の連絡です。現在ほど携帯電話が普及していなかった約二十年前、連絡は家の電話で取り合っていましたが、なかなか全員に連絡が回らず苦労していました。

携帯メールや携帯アプリLINEなどで一斉に早く確実に連絡が取れるようになった現在では、行事への参加率も上がりました。特にLINEは一方通行ではなく、出欠などの確認も簡単に取れるので有用なツールになっています。

平成二十八年度から役員が改選され新体制が始まりました。新体制では全員が確実に資機材を操作できるように、分団の訓練会以外にも独自に小型ポンプや油圧ジャッキ、チェーンソーなどの訓練をしています。

また、昨今頻発している「ゲリラ豪雨」等による浸水の救助では、小型ポンプを使用する機会が増えている為、全団員が確実な操作ができるよう訓練に励んでいます。

最近では、普通自動車運転免許を所持していてもマニュアル自動車の運転機会が少ないため、積載車の運転に自信がない班員も多く、全員が積載車の運転をできる様になる事も課題となっています。

篠原消防隊と消防団と連携訓練

第二分団第三班班長　山本　基博

『自助』とは「自分で自分を助けること」ですが、「救助する人になること」を目標にすることが多い地域は、防災に強いといわれています。消防団もこの「救助する人になること」に含まれると思います。

『防災・減災』とは、国・都道府県・市町村・町内会・企業・家族・個人等がそれぞれのパートで積極的に取り組むべきであると思います。

災害は完全に防ぐことはできませんが、被害を減らすことができます。

現在、『公助』の代表的な例として、横浜市は小中学校などを地域防災拠点として指定し、防災備蓄庫の設置、資機材、食料などの備蓄を進め、各拠点には災害時用公衆電話が配備されています。ここまで揃っていますが、上下水道が使用不能となっては避難生活に支障が出ます。

各小中学校の周辺の消火栓の整備、そして上下水道の耐震工事と、整備は進んでいますが、設備の整備だけに頼ることなく、消防署と消防団が連携訓練を繰り返すことで、「救助する人になること」ができるのでしょう。

そこで、私たちは毎年ポンプ操法の訓練をしている場所で、公設消防隊のポンプ操法の展示を見て、感動を覚えながらホースの巻き方、防火着装、四十ミリホース展張、ガンタイプノズルの取扱い訓練をしました。

師岡仲町内会スタンドパイプ式初期消火器具取扱い訓練

第三分団第五班　鈴木　利彦

昨年、師岡仲町内会に設置されたスタンドパイプ式初期消火器具の取扱い訓練が行われ、我々第三分団第五班も支援のため参加しました。スタンドパイプ式初期消火器具とは、大規模地震等の災害発生時に、地域住民が相互協力により初期消火活動を行うための消火器具で、横浜市の補助により各町内会、自治会に配備が進められています。

港北消防署予防課の方々の指導および消防団員の補助のもと、家庭用消火器訓練から始まりました。この日のメインであるスタンドパイプ式初期消火器具の取り扱いでは、消火栓（マンホール）の蓋を開け、ホースを繋ぎ放水するまでの一連の流れを、多くの参加者に体験していただきました。

初めての放水に戸惑いながらも、「災害時には自らの手で消火活動を行わなければならない」、ということを意識しながら真剣に取り組んでいる姿を見て、団員の指導にも熱が入りました。

訓練の最後は全員でバケツリレーによる消火訓練を行い、終了しました。皆さんに我々消防団員の日頃の活動内容を見て戴き、なによりも防災意識の高揚を図ることができ、とても有意義な内容になりました。

港北消防団第四分団研修会に参加して

第四分団 第四班 班長　吉田　哲也

第四分団では、平成二十八年二月八日（木）に防災視察研修会を行いました。綱島を出発し、横浜市民防災センター、神奈川県庁本庁舎、新庁舎、第二分庁舎、海上保安資料館横浜館を見学しました。

防災センターでは、東日本大震災や阪神淡路大震災等の地震や超高層ビルの揺れ等の体験が出来る『地震シミュレーター』体験を皮切りに、消火器を使った消火体験を実施、煙からの避難行動を体験できる『火災シミュレーター』、一般家庭を模した部屋に入り、音響や映像などで演出される地震・火災などの体験を行える『減災トレーニングルーム』を体験し、その災害に対し自分は「どの様な行動をとればよいか」を学ぶことができました。

神奈川県庁本庁舎では第三応接室（旧貴賓室）、大会議場（旧議場）を見学しました。家具やシャンデリアにも宝相華（唐草文のひとつで極楽浄土に咲く幻の花）の模様が施されている第三応接室は、竣工当時とほとんど同じ状態だそうです。大会議場は格式を感じる空間でした、なお、この場所では結婚式もできるそうです。屋上に上がると、当日は天気も良く、大桟橋はもとより遠くスカイツリーも見渡すことができました。

神奈川県庁第二分庁舎では神奈川県議会の会議場、各会派の事務室、控室及び災害対策本部会議室（第二分庁舎）を見学しました。この災害対策本部会議室は東日本大震災以来使用していないそうです。再度使用する日が来るのでしょうか？

次に、海上保安資料館横浜館の見学です。ここには工作船展示室があります。

平成十三年十二月二十二日に発生した九州南西海域工作船事件にかかわる工作船及び回収物の展示がしてあります。報道等で記憶にあると思いますが、巡視船からの停船命令を無視し、巡視船に向けて攻撃を行い、自爆と思われる爆発の後に没したものを海底より引き上げて展示しているそうです。

近くてもなかなか行くことのできない場所であったり、普段入ることのできない場所であったりと、大変有意義な一日を過ごすことができました。ありがとうございました。

神奈川県議会 会議場にて

健康診断受診のすすめ

第五分団副分団長　池田　剛

昨年十一月の初めに、毎年恒例の大腸の内視鏡検査を受けたところ、検査医が途中から妙に押し黙り、さらに看護師さんが急に優しくなり、「あれ」と感じました。前年などは「きれいなものですよ」とすぐに伝えてくれたものが「結果は二週間後にお知らせします」とのこと。誰でも「これは」と考えるのが普通です。

そして二週間後、上行結腸癌と診断されました。執刀医に回され、またしても精密検査です。下剤・造影剤・X線検査と続いて、『がん』が確定しました。

さらに二週間後、再度下剤・内視鏡検査を行い『がん』の部分に、ゴルフのマーカーの様な印をつけられました。本年一月十日に入院、十一日に手術。一週間から十日の入院とのこと。以上が今回の流れです。

一番堪えたことは、手術前日を含め計四回も下剤を飲み、直腸内をきれいにすることです。二番目に堪えたことは、医師のがん宣告時において「ショックですよね。」という言葉でした。もちろん悪意あるものとは思いませんが、医師の「ショックですよね。」の言葉の方が「ショック」でした。私自身、父方が『がん』または『脳出血』、母方は全て『がん』で亡くなっているので、「いずれは自分も」と覚悟していたのです。

四年前に初期の大腸がんを除去、二年前には前立腺がんの放射線治療を受けており、今回で『三回目』と軽く考えていたわけです。

ただし今回は異なりました。下血するわけでも無いし、どこかが痛いというわけでもありません。その為、出初式の予行、年末夜警・出初式本番、すべて参加させていただきました。がんと診断された後、ネットで調べて少しビックリしたのは、昨年の推計ですが、がんと診断された人は百万人以上、がんによる死亡者数は三十七万四千人ということです。この数が多いと感じるか少ないと感じるかはそれぞれでしょう。ちなみに、港北区の人口は約三十五万人です。最後にこういうデータがあります。大腸がんになりやすい人…

1. 五十歳以上である
2. タバコを長期間吸っている
3. お酒が好きな人
4. 食事は肉や脂質が多く、野菜をあまり食べない
5. 太っている人
6. 血縁者に大腸がん・子宮がんなどを発症したことがある

下戸の私は、3番以外全て当てはまっています。身に覚えがある人は是非検査を受けてください。それから、がん保険（できれば二つ以上）には入っておきましょう。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

自治会内消防訓練の開催

高田町内会白坂台住宅部会　宮園　義人

近年、列島は地震、豪雨、豪雪等の自然災害が絶え間なく発生しています。穏やかな日常を一瞬にして壊してしまう天災・火災、昨年末の糸魚川の火災も決して他人事ではありません。しかしながら「自分には関係ない」「自分の周りには起きない」と安易に考えている方が多いのではないでしょうか？

いざ、自分の身に降りかかった時に右往左往してしまった結果、大きな被害につながる事が多いとのことから、当住宅部会では防犯部長と連携を図り、がけ崩れ危険地区の見回り等に心がけております。

また近年、これらを教訓に防犯意識が高まってきていることもうれしいことです。当自治会では前年度に、消火設備の配備をと提案があり、平成二十八年度の計画に計上しました。消火器機具等整備補助交付事業の話を聞き、高田消防出張所川渕所長の協力をいただき、スタンドパイプ式初期消火器具購入補助の交付申請をしたところ、幸いにも補助交付が決定。十二月八日に納入されました。

本来、これらの機器は使用する機会無く、宝の持ち腐れとなるのが一番ですが、いざという時に使えないのでは困るので、川渕所長にお願いし一月二十九日に消防消火訓練を実施しました。

当日は川渕所長、港北消防団第六分団の方々の協力ご指導を仰ぎながら一組　四～五名に分けて消火訓練をしました。

放水開始までは二分四十秒程かかりましたが、実際の火災の時は慌てていることもあり、さらに時間がかかるとのアドバイスでした。ちなみにプロは三十秒以下で放水開始とのことでした。

今回、初めて訓練を体験した参加者からは、「良い体験をすることができました。」との声を頂きうれしく感じています。

最後に今回の訓練にご協力、ご指導いただきました川渕所長、第六分団の方々にあつく御礼申し上げます。ありがとうございました。

救助資機材訓練

第七分団　第三班　副班長　高橋　勝浩

平成二十八年十一月二十日(日)　新羽大熊農業専地区に於いて、新羽消防隊の指導の下、救助資機材訓練を行いました。

私が消防団に入団した「二十数年前」の訓練といえば、小型ポンプ操法に重点をおいたものが主でしたが、平成二十三年に発生した東日本大震災以降、様々な資機材の訓練が加わる様になりました。

私達の班には今回新たに、倒壊した建物や自動車から助けを求める人を救助する為の機材（エンジンカッター・可搬式ウインチ・油圧スプレッター等）が配備されたため、今回は実際の事故を想定した訓練を行いました。

初めに、可搬式ウインチで事故車両を電柱から引き離す訓練を行いました。ワイヤーの掛け方や引き回しを学び、声を掛け合いながら対象車両を引いて行きます。

次にエンジンカッターを使って金属を切断する訓練です。

今回の訓練で使用する資機材の中でも一番危険を伴うため、全員が一層の緊張感を持って取り組みました。安全管理を行い、中山班長の「切断開始！」の号令で、鉄製のドアや単管パイプを、火花を上げながら切断しました。

最後は油圧スプレッターです。

これは、油圧の力でアームを開閉させてドアを拡張する事ができきる上、小さな物であれば硬い物でも切断できる機材です。

消防隊員の方から丁寧な指導を受けて、全員が上手に使えるようになり、今回の救助資機材訓練を終了しました。

これから予想される大規模震災に備えた対応や配備された機材を有効に使えるよう努めて行きたいと思います。

三団三署合同研修会に参加して

第八分団第四班　班長　米田　奈美子

平成二十八年十一月三十日、横浜市民防災センターにて三団三署合同研修会が行われました。鶴見区役所総務課危機管理担当・川島係長より、災害時や災害に備えるために重要なことについてお話いただきました。

初めに、参加者全員で『シェイクアウト』を行った際、動作だけでなく、声を出して他の人にも知らせる事も併せて行うようアドバイスがありました。

災害時、自分の身は自分で守る『自助』が最も重要であり、『公助』『共助』は自助の上に成り立つものであること。そして、情報と物資が集まる地域防災拠点では皆で助け合う『共助』が不可欠ですが、そのためには日頃からの意識と訓練の積み重ねが、とても大切になります。

備蓄品は、普段、使用しているものを少し多めにストックしておき、使用した分を買い足していく『ローリングストック』にすれば、期限切れの心配がないこと、持ち出し品には、眼鏡や常備薬など個人で必要なものや衛生用品等も準備しておくと良いとのことでした。

この研修会で、訓練の積み重ねと地域の方々に広める『実践と啓発』が、とても重要であることを学ばせていただきました。これからは『啓発』を更に意識して、訓練に臨みたいと思います。

『平成二十九年港北区消防出初式に参加して』

第八分団　五十嵐　智子

消防団入団から二回目となる今年の出初式当日は、天候に恵まれ清々しい朝でした。

一方で、私の心の中は、緊張と不安で曇っていました。というのも、出初式の総合演技に参加するのも初めて、しかもその様子をテレビ局（NHK）が取材するという二重の緊張に襲われていたからです。ただ、こんな機会が訪れることはめったにないのだし、きっと良い経験となるに違いない、と自分に言い聞かせて、いざ出陣。

私の役割は、倒壊家屋から救出され仮救護所に運ばれてきた心肺停止の人に、胸骨圧迫をしながら、到着した救急隊に引き継ぐというものでした。総合演技が始まると、テレビカメラがどこで撮影しているのかも目に入らないほど、必死になっている自分がいました。

与えられた役割をきちんと果たせたかどうかは分かりませんが、訓練を積み重ねることが、緊張や混乱した状況の中でも対処する力を養ってくれるのだということを、心と体で感じることができた貴重な経験となりました。

このような機会を頂けたことに心から感謝しております。どうもありがとうございました。

超小型積載車？導入

平成二十九年三月十一日(土)に、超小型積載車が納車されました。この車両は、前消防団長の伊藤武夫氏から港北消防署に寄贈されたものです。

バッテリー充電式の電気自動車なので排気ガスが出ることもなく、大人一名、こども一名を載せて緊急走行を行います。

大人二名以上で持ち運ぶことができます。大きなイベントでの活躍が期待されます。

『よこはま地震防災市民憲章』石碑除幕式

東日本大震災から六年目を迎えた平成二十九年三月十一日（土）に、港北区総合庁舎にて『よこはま地震防災市民憲章』の石碑除幕式が開催されました。

この石碑は、『港北防災支援の会』有志の皆さん（代表　前団長　伊藤武夫氏）から『よこはま地震防災市民憲章』を通じ、区民の皆様に『自助・共助』の重要性をお伝えするために寄贈されたものです。

◇責任職職員紹介◇

平成二十九年四月一日付消防局人事異動に伴い安江署長のほか、次の方々が港北消防署に着任されました。

どうぞよろしくお願いいたします。

中畑郁実　救急担当課長
佐藤浩行　予防課長
長谷部宏光　警防担当課長
安江直人　消防署長
福田隆浩　小机出張所長
大塚謙治　警防第二課長

港北区内の火災情報

平成29年3月31日現在

火災発生状況

	年別	平成29年	平成28年	増△減
	件数	24	22	2
火災種別	建物	7	8	△1
	林野	0	0	0
	車両	2	1	1
	船舶	0	0	0
	航空機	0	0	0
	その他	15	13	2
損害	焼損床面積	107	103	4
	死者	3	1	2
	焼死者	3	1	2
	放火自殺	0	0	0
	負傷者	0	4	△4

主な出火原因

	年別	平成29年	平成28年	増△減
1	放火	11	11	0
2	たばこ	5	1	4
3	ストーブ	3	1	2
4	電気機器	2	0	2
5	配線器具	1	0	1

編集後記

「港北の消防」の編集に携わってから、一年が過ぎようとしています。文章を書くのも苦手で、記事の依頼など初めてのことばかりで不安でしたが、前任の編集委員　消防署員、周囲の皆様の指導のもと、皆様に興味をもって読んでいただける紙面を作っていきたいと思います。地域の防火防災活動などの取り組み、活動報告などのご意見を、お寄せ頂ければ幸いです。今後とも「港北の消防」の発行に関して、ご理解ご協力をお願いします。

第十九期編集委員

本部　加藤　修（編集顧問）
本部　長瀬　進（編集委員長）
第一分団　村田　庸明
第二分団　砂田　俊彦
第三分団　吉田　亘
第四分団　黒川　亮一
第五分団　池田　剛
第六分団　山本　忠夫
第七分団　中山　勉
第八分団　畑野　悦子